

<株式会社エフエム東京 第 526 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 8 年 3 月 3 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル委員長	佐々木 俊 尚 委員（レポート）
松 田 紀 子 委員	山 口 真 由 委員
柴 崎 友 香 委員	福 里 真 一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
内藤 博志	取締役執行役員コンテンツ事業局長
宮野 潤一	執行役員編成制作局長
砂井 博文	編成制作局制作部長
蘭 有紀子	編成制作局編成部長
高橋 智彦	編成制作局制作部チーフプロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 宮野放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（53 分）
『ラジオのタマカワ』のダイジェスト
2026 年 2 月 26 日（木）11:30～13:00 TOKYO FM

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■桑田佳祐 古希祝い!! 勝手に HAPPY BIRTHDAY リクエスト

TOKYO FM では、桑田佳祐氏の満 70 歳の誕生日である 2 月 26 日（木）当日に、スペシャル企画「桑田佳祐 古希祝い!! 勝手に HAPPY BIRTHDAY リクエスト」を実施しました。『Blue Ocean』から『ラジオのタマカワ』、『山崎怜奈の誰かに話したかったこと。』、『THE TRAD』の 4 ワイドを縦断し、リスナーから桑田佳祐氏のソロ楽曲のリクエストと曲にまつわるエピソード、お祝いのメッセージを募り、約 50 曲をオンエア。TOKYO FM レギュラー番組『桑田佳祐のやさしい夜遊び』で 30 年を共にしてきた桑田氏をリスナーと共に祝う特別企画で盛り上げました。



■radiko 普及推進キャンペーン「いつでもどこでも Enjoy! radiko」

民放ラジオ 99 局では、2 月 24 日（火）より 1 か月間、radiko 普及推進キャンペーン「いつでもどこでも Enjoy! radiko」をスタートしました。本キャンペーンは、日本全国における radiko 聴取の普及推進を図ることを目的に、ラジオの魅力伝えるとともに、タイムフリーやシェアラジオなど放送にはない radiko の便利な機能を紹介していきます。全国の民放ラジオ 99 局がそれぞれ選出した“radiko アンバサダー”が、各局が行う PR 展開の中心役を担うことになっており、TOKYO FM では山崎怜奈さんが担当しています。さらに、radiko をリンク先とした NFC カード(非接触型 IC カード)を各局に配布し、局員自ら周りの方に radiko アプリのインストールを勧める PR 展開も実施中です。



議題 2：番組視聴

『ラジオのタマカワ』のダイジェスト

2026 年 2 月 26 日（木） 11:30～13:00 TOKYO FM

出演：玉川徹、原千晶

【番組概要】

本番組は、テレビ朝日系「羽鳥慎一モーニングショー」でレギュラーコメンテーターを務める玉川徹氏が、2024 年 4 月に開始した初の冠レギュラーラジオ番組です。テレビで培った分析力やコメント力を軸に、音楽・カルチャー・エンターテインメントの深掘りや様々なジャンルの著名人との対談を展開し、テレビでは見せきれていない新たな魅力を伝えています。また、定年まで会社員として勤めた経験を背景に、リスナー世代に寄り添う人生観や社会との向き合い方を提示している点も本番組の特徴です。昨年 12 月には番組初の公開イベントも実施しました。

2 月 26 日の放送は番組開始 100 回を迎え、玉川氏がかねてより対談を望んでいた俳優・渡辺謙氏をゲストに迎えました。両者の対面は 2020 年のテレビ共演以来です。番組では、俳優が出演作をいかに視聴者へ届けるかという宣伝の在り方について、渡辺氏が映画プロデューサーの経験を交えて語りました。さらに、翌日 2 月 27 日から公開となる出演映画「木挽町のあだ討ち」をきっかけに、時代劇の国際展開についても議論が及び、配信環境の変化、日本文化を世界に発信する可能性、世界市場で通用する作品制作への提言もありました。終盤には、俳優として社会とどう向き合うかという姿勢や現在の国際情勢にも話題が及び、表現者としての責任と覚悟が語られる内容となりました。



【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○玉川氏はテレビでは強面で舌鋒鋭い印象があるが、ラジオでは、気弱で少し不器用そうで、真面目な普通のいい人に感じられて、ギャップがある。不器用そうで真面目な男性は主婦層からの支持がある気もして、テレビとは違う普通の人という感じがする、このギャップが人気の理由なのかなと思いつつ聴いた。

○渡辺謙氏の話で一番印象に残ったのは、玉川氏が、「日本人が作ったエンターテインメントが世界に通用するようになっていくかどうか」とか、「日本で作って世界に届ける」という話をした時に、「いや、それにこだわる必要は全然ないんだよね」と回答したこと。確かに、映画「国宝」の撮影監督は外国人だし、日本とか日本人とかそういうことじゃなくて、時代劇ということが主なテーマで、できる人がやればよく、良いエンターテインメントが作られればそれでいい、という意図の話をされていて、すごく開かれた考え方で、「そうだな、その通りだな」と思った。

○非常に面白く拝聴した。渡辺謙氏がラジオでこんなに長くゲスト対談するのかと驚いた。こういった対談は後半にかけて盛り上がる印象がある。最初の初めまじりの挨拶の部分だったり、導入の紹介はむしろ省いて、後半に向けてトークを充実させていくことができればもっと聴きごたえがあったような気がする。演技をされていて「ゾーンに入ったことがある」と渡辺氏が発言した時に、割とさらっと会話が終わってしまい、もう少し掘り下げて聴きたかったという気がする。ただ、全体としては、とても濃くいろいろな話題が凝縮されていて、玉川氏はインタビュアーとしても優秀だと思った。

○渡辺氏が東京新聞と朝日新聞に投書しているという発言に対して、アシスタントの原千晶氏には、「こんな投書でしたよね」と事前に情報を準備してフォローなどを入れて欲しかったと思う。リスナーの全員が渡辺氏の投書についてを知っている訳ではないので、何らかのフォローがあった方が聴きやすかったのではないかなと思う。

○ゲストパートの 60 分の中に渡辺氏の役者としての話や時代劇についての話、作り手の視点から社会との関わり方までがギュッと詰まった、とても聴きごたえのある番組だった。

○時代劇について、渡辺氏が情報量が少ないという表現をしていて、それがとてもユニークな視点だと思った。時代劇には型があって、そのことが情報量を少なく感じさせるのかも知れないが、逆に、だからこそ自由に作れる部分があるのかと渡辺

氏の話をして聞いて思った。時代劇が世界に認められてきたという話の中で、やっとスタートだという話が印象に残った。日本人だからではなく、作りたい人が作ったらいい、というのは、海外に出た人の視点。俳優だけでなく、プロデューサー的な、作って届ける人側の話が聴けたのも興味深かった。投書の話はもう少し詳しく聴きたかった。

○以前にこの審議会で、玉川氏の特別番組を聴いたが、その時はまだテレビの玉川氏の感じが強かった気がするが、今回聴いて、落ち着いた感じが出てきたというか、ラジオの話し方だ、と感じた。テレビではやはり画面で目立つために強弱が必要なのだと思ったし、ラジオはやっぱりじっくりと聴くのが向いているメディアなのだと思えてきた。

○さすが大物俳優だけあって、話が整理されていて聴きやすい回だった。渡辺氏の俳優業や世界への向き合い方を、こんなにもじっくりと、ご自身の言葉で聴けたのはすごく興味深かった。時代劇の情報量の少なさも、渡辺氏の言葉ですごく腑に落ちた。映画「木挽町のあだ討ち」のプロモーション稼働もあったと思うが、このラジオを聴いてこれはぜひ観に行こうと思ってしまったくらい面白いトークだった。

○テレビの玉川氏よりラジオの玉川氏のほうが、素の部分が出ていいなと思う反面、1つだけ気になったのは、アシスタントの原氏に対して、高圧的な部分が散見されて残念に感じた。これは生理的に受け入れられないリスナーもいるかもしれないと思う。

○せっかく渡辺氏が心を開いて様々な話をしてきているので、もう少し踏み込んで話をひろげて欲しかったと思う。

○時代劇についての様々なお話、大変興味深く拝聴した。近年は、江戸時代を舞台にした昔ながらの時代劇の型にはまらない新しい作品が登場し、全世界に配信されている。これらの新しい時代劇は、伝統的な時代劇とは違って、全く新しい価値観や視点を用意していると思う。視聴者に分かり易くするためにわざと現在の価値観に合わせた物語や構成にせず、現代とは全く異なる価値観や人生観、死生観で生きる当時の人たちをリアルに描き出していこうという意欲に満ちていて、逆にそれが受け入れられていることは非常に面白い変化だと思う。

○渡辺氏の話もとても面白かったが、時代劇がなぜ再びブームになったのか、なぜ海外で受け入れられているのか、もう少し深掘りして聴きたかった。「モーニングショー」で鋭くコメントをしている玉川氏なので、そういう部分は期待したいと思っている。

○玉川氏がテレビでは見せない部分を吐露したり、生活の周りの雑記のようなことを伝えていくところに大変親近感やラジオらしさを感じた。

■みなさんからご意見のあった新聞への投書に関しては、玉川氏からも事前にこういうことを質問したいという説明があったので、原稿には投書の内容を貼って、いつでもその内容に触れられるようにしていたが、生放送で様々な話が出る中で玉川氏も原氏も中身をフォローすることが意識から飛んでしまっていて、あのよう形になってしまったと反省している。

■玉川氏と原氏は関係値も良く、玉川氏が鋭い時に原氏が癒しキャラのように柔らかくカムフラージュするようないいバランスがあるが、ゲストをきちんとフォローして、伝えたいポイントに達するという部分はまだまだあると思う。

■貴重なご意見をありがとうございました。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「TOKYO FM Navi」

3月29日(日) 5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>